

あるべき姿(概ね30年後)

- 県民や事業者が地球温暖化をはじめとする環境問題の重要性を共有し、環境と共生した生活スタイルや事業活動が定着することにより資源循環・自然共存社会が実現し、環境への負荷の少ない持続可能な社会が構築されています。

目指す姿(5年後)

ネット・ゼロカーボン社会の実現に向けて、省エネ住宅や省エネ家電等の普及・拡大や、生産・加工・流通・消費の各段階における省エネルギーの徹底、再生可能エネルギーの活用が進み、二酸化炭素の排出をできるだけ抑えた暮らしや事業活動が定着しています。加えて、資源としての二酸化炭素の再利用や石油由来プラスチックからの代替などを促進し、環境と地域経済の好循環を図りながら、広島型カーボンサイクル構築の取組が加速しています。

大気・水・土壌等が環境基準に適合した状態が引き続き保たれています。また、海洋プラスチックごみによる新たな汚染がゼロになる仕組みの構築や、海洋生分解性プラスチック等の開発・普及促進の取組が進んでいるとともに、かき養殖に由来するごみの流出防止対策の徹底が図られることにより、本県の宝である瀬戸内海の環境が保全されています。さらに、これらの情報が県民へ適切に発信されることで、安全・安心に生活できる良好な地域環境が確保されています。

廃棄物が適正かつ効率的・安定的に処理されているとともに、新たな資源の投入量・消費量を抑えつつ、発生した廃棄物が素材ごとに高度に選別され、資源として再生利用されることにより、循環経済が構築されています。

自然公園等施設が、身近な自然や生きものとのふれあいの場として、安全で快適に楽しみながら県民に広く利用されているとともに、貴重な生きものに関する環境学習や保護活動の情報が得られ、自然環境保全や野生生物保護管理の重要性の理解が深まっています。

県民や事業者が環境問題を自らの問題として捉え、環境と経済・生活のどちらかではなくどちらも追求する社会となるよう、環境保全に取り組む人材が育成され、地域や企業において具体的な活動が行われています。

用語解説

ネット・ゼロカーボン社会…二酸化炭素(CO₂)などの温室効果ガスの人為的な発生源による排出量と、再利用等による除去量とが均衡した、温室効果ガス排出実質ゼロの社会。
広島型カーボンサイクル…二酸化炭素(CO₂)を炭素資源(カーボン)と捉え、広島県の強みを生かしながら、生産活動における再利用や、海洋中でCO₂に分解される海洋生分解性プラスチック等の普及促進などにより、海洋を含む地球上において、炭素を循環させる仕組み。
海洋生分解性プラスチック…ある一定の条件の下で微生物などの働きによって分解し、最終的には二酸化炭素と水にまで変化する性質を持つもののうち、海洋中で生分解するプラスチック。

指標

温室効果ガス排出量
(削減率)

ビジョン策定時点 (R2)の現状値	現状値	5年後の目標値 (R12)
5,903万t (H25)	4,725万t (▲19.9%) (R3)	3,574万t (▲39.4%)

目標設定の考え方

H25実績値を基準とし、2050年ネット・ゼロの実現に向けた国の地球温暖化対策計画に基づき、排出削減量(2,329万t)を算出することにより目標を設定した。

大気環境基準達成率
(二酸化硫黄、一酸化炭素、二酸化窒素)
水質環境基準達成率(重金属等有害物質)
ダイオキシン類環境基準達成率
(大気、公共用水域、土壌)

ビジョン策定時点 (R2)の現状値	現状値	5年後の目標値 (R12)
100% (R2)	全て100% (R6)	100%

目標設定の考え方

人の健康に関わる有害物質の環境基準(達成すべき行政目標)であるため、達成率100%の継続を目指して設定した。

3品目(ペットボトル、
プラスチックボトル、レジ袋)の
海岸漂着物量

ビジョン策定時点 (R2)の現状値	現状値	5年後の目標値 (R12)
8.4t (R1)	1.5t (R6)	1.06t

目標設定の考え方

「2050 輝く GREEN SEA 瀬戸内ひろしま宣言」において目標としている、瀬戸内海に新たに流入する海洋プラスチックごみのうち、特に海岸漂着物量の多い主要3品目(ペットボトル、プラスチックボトル、レジ袋)の新たな流出をR22までにゼロとすることを目指して設定した。

産業廃棄物の再生利用率※1

ビジョン策定時点 (R2)の現状値	現状値	5年後の目標値 (R12)
68.5% (H30)	70.5% (R5)	71.2%

目標設定の考え方

国の目標設定に準じ、製造業等から排出される産業廃棄物の再生利用率等の向上を目指して設定した。

「暮らしている地域では、身近に
自然を感じることができる」の偏差値

ビジョン策定時点 (R2)の現状値	現状値	5年後の目標値 (R12)
—	53.1 (R6)	54.2

目標設定の考え方

都市規模が同程度である地方中枢都市を有する都道府県の偏差値の平均(54.2)を上回ることを目指して設定した。

環境保全活動に
取り組んでいる県民の割合

ビジョン策定時点 (R2)の現状値	現状値	5年後の目標値 (R12)
59.9% (R2)	69.8% (R5)	75.0%

目標設定の考え方

環境保全に関する具体的な活動が広く行われている状態となるため、国の類似の調査における水準を超えることを目指して設定した。

※1 R12年度までに大規模施設の休廃止が予定されていることを踏まえ、算出方法の見直しをR7年度に実施
《参考》R7年度見直し前の方法による算出値は74.9%(H30)

目指す姿の実現に当たって考慮すべき課題

- 温室効果ガス排出量は減少しているものの、依然として、地球温暖化に歯止めがかかっておらず、異常気象による大雨等の災害発生や農林水産物・健康・生態系などへの影響が顕在化しており、国際的な気候変動への対応として、二酸化炭素やフロンなど温室効果ガスの削減、森林等による吸収、カーボンリサイクル技術等による活用等、資源循環をより一層促進していく必要があります。
- 県民の健康を保護する上で、大気・水・土壌に関連する有害物質の環境基準を満たし維持することにより、良好な地域環境を確保する必要があります。また、かき養殖に由来するものも含め、瀬戸内海海岸に多くの海洋プラスチックごみが確認されるため、プラスチック代替素材への転換や流出防止対策、清掃・回収の取組を一層推進する必要があります。
- 資源生産性・循環利用率を高める取組を一段と強化するためには、従来の大量生産・大量消費・大量廃棄型の社会から、持続可能な形で資源を効率的・循環的に有効利用する社会への移行を推進する必要があります。
- 都市化やデジタル化の進展により、自然体験の機会が減少しており、特に子供の自然への関心低下の一端となっていることから、自然へ関心を引くようなきっかけをつくる必要があります。
また、絶滅が危惧される貴重な生きものについて、生物多様性を維持する観点から県民への理解を深める必要がある一方、ツキノワグマ等の市街地などへの出没について、適切な管理により県民の不安を解消する必要があります。
- 環境保全行動への県民や事業者の関心は高まっていますが、実際の行動に十分つながっていません。持続可能な社会の構築に向けて、環境と共生した活動への理解や実践が求められていることから、県民や事業者の自主的な取組を促進する必要があります。

目指す姿の実現に向けた取組の方向

① ネット・ゼロカーボン社会の実現に向けた地球温暖化対策の推進

ネット・ゼロカーボン社会の実現に向けて、家庭における省エネ機器などの選択や脱炭素型ライフスタイルへの転換を一層促すとともに、脱炭素経営視点での省エネルギー対策や再生可能エネルギーの導入を促進します。また、国との連携等により、産業活動から排出される二酸化炭素を分離・回収し、原材料として利用するカーボンリサイクル技術の実用化に向けた開発やバイオマスプラスチック等の再生可能資源への適切な代替などを促進し、環境と地域経済の好循環を図りながら、地域の特性を生かした広島型カーボンサイクルの構築を促進します。
また、これらの取組に加え、防災・減災、農林水産、健康、自然生態系などの各分野における気候変動への適応について、情報収集や、普及啓発、調査・研究などに取り組めます。

② 地域環境の保全

工場の監視・指導等を通じて、地域における大気・水・土壌環境の良好な状態の確保・維持に取り組めます。また、瀬戸内海的环境保全に向け、再生利用できないワンウェイプラスチックの削減及び代替素材製品の社会実装化、かき養殖に由来するごみの流出防止対策、並びに地域での海岸清掃活動への支援などに、関係府県との連携を図りながら取り組めます。

③ 廃棄物の適正処理と地域の資源循環の推進

監視・指導等を通じて廃棄物の適正処理を確保するとともに、製造業や小売業とリサイクル事業者等が連携した、プラスチック等の資源性廃棄物の回収・選別・再資源化の技術実証や設備投資の支援、再エネ関連製品のリユース・リサイクル体制の構築などにより、地域の資源循環を推進します。

④ 自然環境と生物多様性の保全

県民のニーズ等を踏まえ、県民の自然への関心が向上するよう自然公園等施設の魅力を高め、かつその効果的な発信に取り組みます。

また、絶滅が危惧される貴重な生きものの保全につながる啓発活動等を行うことにより、自然環境保全や野生生物保護の理解を高めるとともに、ツキノワグマ等の出没時に適切に対処できる仕組みの構築や出没しにくい環境づくり等を進め、県民の安全を確保しながら、野生生物との共生を図ります。

⑤ 県民・事業者の自主的な取組の促進

持続可能な社会の構築に向けて、SDGsを基調とした考え方に基づき、環境保全に関する意識醸成につながる啓発活動等を行うことにより、県民・事業者の自主的な取組を促進します。

重点項目に関する主な取組

- 環境と経済が両立した持続可能な発展に向けて、ひろしまネット・ゼロカーボン社会の実現や、海洋プラスチックごみ対策を軸とした循環経済の形成等の取組を進めます。

用語解説

ワンウェイプラスチック…一度だけ使用して廃棄する、繰り返し使わないプラスチック製品。コンビニやスーパーでもらうスプーンやストロー、ホテルの歯ブラシなど。
SDGs…Sustainable Development Goals の略。「持続可能な開発のための2030アジェンダ」にて記載された、2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標(2015年9月に国際サミットで採択)。17のゴール・169のターゲットから構成。